



東北誘致

建設経費軽減へ 民間資金活用を

東京大・山下氏が指摘

【東京支社】東京大素粒子物理国際研究センターの山下^{もと}了特任教授は11日、都内で8月に開く国際リニアコライダー(ILC)計画実現のためのシンポジウムに向けた報道陣向け説明会を開き、同計画の現状について説明した。建設実現へ民間資金の活用や、省庁横断的な取り組みを促した。

文科省で山下氏が計画のポイントを紹介。建設経費が国の科学技術予算を圧迫するとの指摘に対し▽通常

の科学技術予算の枠外での措置▽PFI(民間資金活用型の社会資本整備)方式導入での国費圧縮による軽減策を挙げた。山下氏は「文科省だけでなく省庁横断での対応が必要」と指摘した。

欧州合同原子核研究所(CERN)の理事会が欧州の素粒子物理学研究の方向性を定める次期計画の議論を来年に始めるとして「年末までに日本政府のスタンスの表明が必要」と語った。

シンポジウムは高エネルギー加速器研究機構(KEK)、お茶の水女子大などが開催。ILCと関わりが深いノーベル物理学賞受賞者バリー・バリッッシュ氏(米)とシエルドン・グラショウ氏(同)が参加し、

8月5日午後2時から東京会場無料。申し込みは<http://ilc-symposium.jp>。定員は中学生以上千人で、入